

ウトナイ湖通信



No.259

2025年12月号



ウトナイ湖に冬がやってきました。遮るものがないこの季節は、落葉した湖畔の木々に飛来する小鳥たちが観察しやすいです。「ジュリ、ジュリリ」という鳴き声がしたら、シマエナガが近くの木に来ているかもしれません。

ウトナイ湖は、周囲約9km、面積約275ha、平均水深約0.6mの淡水湖です。鳥類はこれまでに約270種が確認され、ガン・カモ・ハクチョウなどの渡り鳥にとって重要な中継地、越冬地となっています。

12月のイベント情報

お気軽ガイドウォーク in ウトナイ湖

12月14日(日) 10:30~11:30

レンジャーや当センターのボランティアが40分程、屋外でウトナイ湖の自然を案内します。
※荒天時は館内ガイドウォークに変更します。

- 定員:10名程度
- 対象:一般(小学生以下保護者同伴)
- 申込:不要。直接当センターへ。



環境省レンジャーと一緒に 冬のウトナイ湖の生き物調査をしよう!

12月13日(土) 9:30~12:00

ラムサール登録記念日にウトナイ湖の散策路を歩いて冬の生き物調査を体験します

- 定員:15名
- 対象:一般(小学生以下は保護者同伴)
- 申込:12/2(火)~12/12(金)まで
電話または事務所窓口へ



年末年始 休館のお知らせ

2025年12月29日(月)

2026年1月3日(土)



市民ギャラリー

「写真展 ウトナイ湖の自然」

会期:12月6日(土)午後~1月16日(金)

展示:北海道苫小牧総合経済高等学校 写真部



◆ウトナイ湖野生鳥獣保護センター◆ TEL.0144-58-2231

〒059-1365 苫小牧市植苗 156-26 / 道の駅となり

開館時間:午前9時~午後5時 / 入館無料

ウトナイ湖野生鳥獣保護センター

検索

休館日:毎週月曜日(祝日の場合は翌日)及び年末年始

ラムートくん



~ ウトナイ湖 ~

・国指定鳥獣保護区特別保護地区
・ラムサール条約湿地
・東アジア・オーストラリア地域
・フライウェイ・パートナーシップ

傷病鳥獣ルームから

当センターでは、国指定ウトナイ湖鳥獣保護区とその周辺(苫小牧市行政区域内)において人為的な原因で保護された傷病鳥獣の救護・リハビリを行っています。その活動の一端をご紹介します。



ゴジュウカラ



搬入時の様子

体重 19 g



初診時の様子

9月26日



9月30日

死亡

原因：人工物衝突疑い

市内の民家の前で動けずにいたところを保護され、同日中に保護センターへ搬送される。

初診では、明らかな外傷は認められなかったが、衝突等で頭部を打撲したのか、無意識に頭部が揺れる不随意運動（神経症状）を引き起こしていた。

自発採餌はあったものの、回復を認めず、4日後に死亡。

ゴジュウカラ（スズメ目 ゴジュウカラ科）

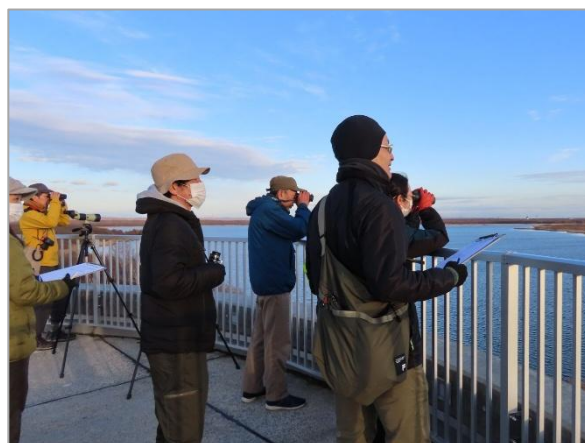
全長14cm。雌雄同色。北海道に分布する亜種シロハラゴジュウカラは、本州以南の亜種と比べて上面の色が淡く、脇や下尾筒の赤褐色の範囲が狭く、下面のほとんどが白いのが特徴です。一年を通じ、平地から山地の森林で生息します。頭を下に向けたまま幹を歩いて下りることができます。

トピックス



作って楽しい ウトナイ湖の生きものの工作

当センター人気の毛糸のポンポンやアイロンビーズに加え、JFE リサイクルプラザ苫小牧より、ペットボトルを使った顕微鏡やアクセサリづくりのリサイクルコーナーも登場しました。市内外から多くの方にご参加いただき、工作を楽しむ姿が見られました。



月に1度の水鳥カウント調査

ボランティアの方に協力していただきながら行なっている調査の一つで、11月はオオハクチョウなど13種135羽が確認できました。ウトナイ湖の水鳥の飛来状況や、環境の変化を把握するために、2002年から継続して実施しており、毎月SNSで結果を報告しています。



ボランティアコーナー

「水鳥カウント調査」に参加しようと思った理由はなんですか？

ボランティア登録のきっかけとなった体験講座の新聞記事を見かけたとき、小さい頃にウトナイ湖を訪ねて白鳥を観たり、サンクチュアリって何だろうと感じたことを思い出したのがきっかけでした。

参加してみた感想を教えてください。

広いウトナイ湖、パッと眺めただけでは見えてなかったのに、教えていただいてよく観察するとたくさんの鳥たちの姿がありました。飛び方の違いで種類を見分けたりするのも興味深く知れば知るほど楽しいです。

印象に残ったことがあれば教えてください。

オジロワシやオオワシがこんな身近にいるとは思っていませんでしたので、見て驚きました。さらに、ワシの動きに驚いてカモたちがいっせいに飛び立つなど、自然の営みが目の前で繰り広げられるのには感動します。

11/9に開催した「水鳥カウント調査」に参加されたきしもとさんに、インタビューしました。



ウトナイ湖の水鳥を探す
きしもとさん

ウトナイ湖 お楽しみコーナー ウトナイ湖野鳥グッズをつくろう

冬になり白くて丸くなった

「エナガ(亜種シマエナガ)」

を作ってみよう♪

丸型のプレートを使用し、中央に黒いビーズ(くちばしの部分)を置きます。写真と同じ位置に、アイロンビーズを並べましょう。

※アイロンビーズは、アイロンの熱で接着するビーズの総称で、並べて熱を加えることで様々なデザインを楽しめます。



エナガ(亜種シマエナガ)



デザイン: 当センター獣医師 山田智子

公式 SNS には、ほかにもたくさん情報を載せています！



Instagram



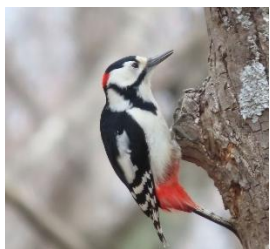
Facebook



X

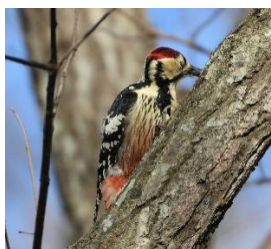


レンジャーのおすすめ自然情報



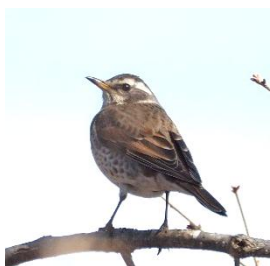
【アカゲラ】

保護センター周辺でも1年を通して見られる。肩羽に白斑点があり、胸から腹部が白い。「キョツ、キョツ」と聞こえたら探してみよう。



【オオアカゲラ】

保護センター周辺でも1年を通して見られる。アカゲラよりも大きい。胸から腹部に黒線がある。よく観察してみよう。



【ツグミ】

冬鳥として渡来し、ウトナイ湖では10月から4月頃まで観察できる。「ケケツ」と大きな声で鳴き、単独または群れで行動する。



【マヒワ】

冬鳥として渡来し、ウトナイ湖では、10月から3月頃まで観察できる。「チュイーン」と鳴き、群れで行動することが多い。

自然観察路を歩くと、「ジェージェー」、「ツピッ、ツピッ」といろいろな小鳥の鳴き声が聞こえてきます。今時期のカラ類は、ハシブトガラやシジュウカラなど種をこえて混ざり、「混群」という群れを作って暮らしています。もし、群れが飛んできたらどんな種類がいるかじっくり観察してみてください。暖かい服装で冬のウトナイ湖の自然をお楽しみください。



ウトナイ湖で自然観察を楽しもう♪

最新自然情報や、自然観察路マップはこちらから



Instagram



Facebook



X

自然観察路ガイドマップ【冬】



冬のお薦めポイント

湖の大部分が結氷します。氷の上にオジロワシやオオワシの姿が見られます。林の中では、留鳥のハシトガラなどのカラス類やエナガ・キバシリなどの混群が見られます。木々の葉が落ちているので、小鳥たちを観察しやすい季節です。